

## 実体経済の動向

### ◇生産、出荷の増勢強まる

(生産—増加テンポ高まる)

10月の鉱工業生産(季節調整済み、前月比、速報)は、前2ヵ月連続大幅増加(8月+2.5%、9月+2.8%)のあとも、+0.9%と引き続き増加した(原計数の前年同月比+15.5%、45年9月以来最高の伸び率)。前月比増加率は鈍化したものの、3ヵ月移動平均値の前月比でみれば、8月+1.7%のあと9月は+2.0%と増勢を強めており、このところ生産はその増加テンポを高めつつあるものとみられる。

特殊分類別にみると、一般資本財(-2.7%、圧延機械、非標準変圧機、合成樹脂加工機械等)が反落したほかは、前月減少した建設資材(+3.2%、橋りょう、鉄骨、亜鉛メッキ鋼板等)、生産財(+1.2%、塩化ビニール樹脂、合成ゴム、普通鋼冷延鋼板等)が再び増勢に転じ、資本財輸送機械(乗用車<2,000cc超>、大型・小型四輪トラック等)、耐久消費財(+0.9%、乗用車<1,000cc

以下>、エアコンディショナ、石油ストーブ等)、非耐久消費財(+0.3%、灯油、金属製がん具等)も引き続き増加した。

(出荷—10月も増加基調持続)

鉱工業出荷(季節調整済み、前月比)は、前月大幅増加(+3.2%)の反動もあって、10月(速報)は-1.7%とかなりの減少を示した(もっとも原計数の前年同月比は+12.9%と生産同様45年9月以来の高い伸び)。これには船舶の減少が大きく響いており(船舶を除く出荷では+0.6%)、3ヵ月移動平均値の前月比が9月+1.0%と増勢を維持しているところからみて、昨年末来の上昇基調はむしろ強まりつつあるとうかがわれる。

特殊分類別にみると、前月著増をみせた資本財輸送機械が大幅反動減(船舶、大型・中型四輪トラック、軽四輪トラック等)を示し、一般資本財も反落(-4.3%、鉄鋼用ロール、ポンプ、歩行用トラクター等)したが、一方前月落込みを示した建設資材(+5.5%、亜鉛メッキ鋼板、遠心力鉄筋コンクリートパイル、スチールサッシ等)、非耐久消費財(+1.8%、万年筆、金属製がん具、石けん等)、生産財(+2.6%、銑鉄、普通鋼冷延鋼板、アルミニウム等)が増加に転じ、また耐久消費財

### 鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(-)率・%)

	46年		47年		47年		
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	8月	9月	10月
鉱工業	229.8	238.1	244.3	253.7	253.4	260.5	262.8
指 数							
前期(月)比	-0.1	3.6	2.6	3.8	2.5	2.8	0.9
前年同期(月)比	4.3	6.1	9.9	10.6	11.1	12.1	15.5
投資財	-0.6	7.0	2.4	8.9	5.0	4.9	0.9
資本財	-0.8	8.0	2.0	10.2	5.0	6.6	0
同(輸送機械を除く)	-1.6	10.9	1.4	15.2	4.4	9.0	-2.7
輸送機械	1.3	1.5	3.5	-2.4	6.3	-0.5	
建設資材	0.2	4.0	3.8	4.7	4.7	-1.6	3.2
消費財	1.5	1.2	3.9	-0.7	-1.2	2.2	0.7
耐久消費財	3.8	3.4	1.9	-1.7	-4.3	4.3	0.9
非耐久消費財	-0.2	0.1	4.4	0.3	1.7	0.3	0.3
生産財	-0.5	2.2	1.8	1.8	2.9	-0.7	1.2

(注) 1. 通産省調べ、47年10月は速報。  
2. 前年同期(月)比は原指数による。

### 鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(-)率・%)

	46年		47年		47年		
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	8月	9月	10月
鉱工業	219.7	230.5	234.3	240.5	239.2	246.9	242.7
指 数							
前期(月)比	-0.5	4.9	1.6	2.6	1.7	3.2	-1.7
前年同期(月)比	4.6	7.6	8.7	9.3	10.6	10.1	12.9
投資財	0.2	7.7	-0.4	6.7	1.9	10.0	-9.1
資本財	0.0	9.0	-2.2	7.9	1.4	14.3	-14.3
同(輸送機械を除く)	-2.7	12.3	-2.0	8.9	3.3	10.6	-4.3
輸送機械	4.6	5.0	-3.5	5.1	-4.6	23.1	
建設資材	0.9	3.6	4.9	3.2	4.4	-2.5	5.5
消費財	-0.8	3.3	3.2	-1.1	-0.2	1.1	2.8
耐久消費財	-1.8	2.6	3.5	-2.0	-4.2	3.6	4.1
非耐久消費財	-0.2	3.2	2.8	0	3.1	0.0	1.8
生産財	-0.4	3.5	2.5	1.7	2.6	2.2	2.6

(注) 1. 通産省調べ、47年10月は速報。  
2. 前年同期(月)比は原指数による。

(+4.1%、エアコンディショナ、卓上扇風機、腕どけい等)も前月に引き続き増加した。

(製品在庫——4か月連続の増加)

10月の生産者製品在庫(季節調整済み、前月比、速報)は、+0.4%と、前々月(+1.6%)、前月(+1.2%)に比し増加率はやや鈍化したものの7月以降4か月連続の増加となった。3か月移動平均値の前月比でも、9月+1.1%と7月以降の増勢を持続しており、製品在庫投資回復が定着したものとうかがわれる。

特殊分類別にみると、一般資本財(-1.4%、動力脱穀機、機械プレス、非標準三相誘導電動機等)、非耐久消費財(-0.3%、万年筆、生活用陶磁器、革ぐつ等)および生産財(-0.5%、銅鉱、軸受、硫酸等)が小幅反落を示したものの、前月著減をみた資本財輸送機械が反動増(乗用車<2,000cc超>、軽・大型四輪トラック等)、耐久消費財(+2.7%、乗用車<1,000~1,500cc、360cc以下>、二輪自動車等)も引き続き増加した。

以上のように、在庫が増加を続ける一方、出荷が減少したため、製品在庫率指数(季節調整済み)は102.2と前月(100.0)比2.2ポイントの上昇を示

した。

(原材料在庫——3か月連続の増加)

原材料在庫(製造工業、季節調整済み、前月比)は、前2か月増加(8月+1.1%、9月+0.4%)のあと、10月(速報)も+1.4%と引き続き増加した。また、3か月移動平均値の前月比でも、海員ストによる6、7月の落込みの影響が払しょくされたため、9月は+1.0%と5か月ぶりに増加に転じた。

特殊分類別にみると、国産分(-0.1%)が、素原材料(石炭、鉄くず、マンガン鉱、亜鉛鉱、石こう等)の大幅減少から続落した一方、輸入分(+4.8%)は、素原材料(鉄鉱石、銅鉱、ニッケル鉱、天然ゴム等)、製品原材料(石油コークス等)ともに増勢を持続した。業種別には、鉄鋼、機械、化学、紙・パルプが小幅の落込みを示したほかはいずれも増加、なかでも非鉄、窯業、石炭、皮革の大幅増加が目だっている。

この間、原材料在庫率指数(季節調整済み)は、消費が鉄鋼、非鉄、窯業、化学等を中心に大幅に増加(前月比+3.1%)して在庫の伸びを上回ったため、84.0と前月(85.4)に比べかなり低下、45年

鉱工業製品在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減(-)率・%)

	46年(期別)		47年(期別)				47年(月別)		
	12月	3月	6月	9月	8月	9月	10月		
指数	245.3	241.8	239.2	247.0	244.0	247.0	248.0		
前期(月)末比	2.7	-1.4	-1.1	3.3	1.6	1.2	0.4		
前年同期(月)末比	6.4	1.5	-0.2	2.5	1.2	2.5	1.6		
製品在庫率指数	109.4	102.9	101.3	100.0	102.0	100.0	102.2		
投資財	0.4	5.5	-1.3	4.6	3.5	-0.1	0.3		
資本財	-1.9	-11.4	2.3	6.2	5.8	-1.8	0.7		
同(輸送機械を除く)	-4.5	-11.8	2.8	9.0	3.7	0.4	-1.4		
輸送機械	-10.3	-8.1	-3.6	22.2	16.7	-13.9			
建設資材	3.7	3.7	-5.0	1.7	0.2	2.4	0		
消費財	4.2	1.7	-0.4	5.9	2.3	2.2	1.4		
耐久消費財	5.8	9.5	1.5	3.1	1.6	2.1	2.7		
非耐久消費財	5.5	-6.5	-2.0	7.3	2.5	1.5	-0.3		
生産財	1.8	0	-2.9	-0.1	-0.3	1.0	-0.5		

(注) 1. 通産省調べ、47年10月は速報。  
2. 前年同期(月)比は原指数による。

製造工業原材料在庫および在庫率の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減(-)率・%)

	47年(期別)			47年(月別)		
	3月	6月	9月	8月	9月	10月
在庫指数	192.2	187.1	185.8	185.0	185.8	188.4
前期(月)末比	1.3	-2.7	-0.7	1.1	0.4	1.4
国産分	1.6	1.1	-2.7	-0.2	-0.1	-0.1
素原材料	5.1	-0.2	-10.3	-1.6	-2.3	-3.8
製品原材料	1.6	1.6	-0.3	0.6	0.3	1.3
輸入分	1.6	-12.9	5.3	4.1	2.4	4.8
素原材料	1.5	-13.7	5.6	4.1	2.2	5.0
在庫率指数	93.3	88.6	85.4	84.9	85.4	84.0
国産分	86.8	85.4	81.0	80.8	81.0	78.2
素原材料	125.3	120.8	106.0	106.6	106.0	97.2
製品原材料	80.4	79.4	77.1	76.7	77.1	75.8
輸入分	112.5	97.7	96.8	95.4	96.8	100.8
素原材料	113.6	97.8	97.4	96.1	97.4	101.5

(注) 通産省調べ、47年10月は速報。

9月(83.8)以来の低水準となった。

(販売業者在庫——9月は再び増加)

9月の販売業者在庫(季節調整済み、前月比、速報)は、+1.4%と8月微減(-0.3%)のあと再び増加に転じた。3か月移動平均値の前月比でも、5月以降4か月連続して増加しており、流通在庫投資の回復傾向が定着したものとみられる。

9月の動きを品目別にみると、鋼材(-5.2%)、民生用電気機械(-5.0%、電気洗たく機、電気冷蔵庫等)、精密機械(-7.3%)等は減少したが、反面、糸(+14.3%、合繊糸、手編糸等)、非鉄金属(+9.9%、ニッケル、アルミニウムの古くず等)、石炭(+5.2%)等が大幅増加を示した。

#### 販売業者在庫の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減(-)率・%)

	47年(期別)			47年(月別)		
	3月	6月	9月	7月	8月	9月
総合指数	182.6	186.3	191.3	189.1	188.6	191.3
前期(月)末比	-1.8	1.9	2.7	1.5	-0.3	1.4
素原材料	12.3	1.2	-3.3	-6.6	1.2	2.4
製品	-2.5	2.1	3.2	2.1	-0.5	1.6

(注) 通産省調べ、47年9月は速報。

(設備投資——10月の関連指標はいずれも反動減)

設備投資と関連の深い一般資本財出荷(季節調整済み、前月比)は、前3か月連続増加(7月+2.6%、8月+3.3%、9月+10.6%)の反動から10月(速報)は-4.3%と減少を示した。もっとも、3か月移動平均値の前月比では、9月+2.9%と6月以来4か月連続の増加となり、上昇基調の持続がうかがわれる。

10月の動きを品目別にみると、鉄鋼用ロール、ポンプ、歩行用トラクター、耕運機等が減少した一方、電動機、械機プレスが大幅に増加したほか、工作機械、銅電線ケーブル、普通鋼鋼管等もそれぞれかなりの増加を示した。

10月の機械受注(船舶を除く民需、季節調整済み、前月比)は、前2か月連続の大幅増加(8月

#### 需要先別機械受注の推移

(季節調整済み月平均、単位・億円)

	47年			47年		
	1~3月	4~6月	7~9月	8月	9月	10月
民需	2,200	1,890	2,070	1,934	2,516	2,011
	(-5.1)	(-14.1)	(9.5)	(9.9)	(30.1)	(-20.1)
同(船舶を除く)	1,786	1,785	1,864	1,854	2,229	1,906
	(6.4)	(-0.1)	(4.4)	(23.0)	(20.2)	(-14.5)
製造業	882	789	980	972	1,061	907
	(23.4)	(-10.5)	(24.2)	(7.2)	(9.2)	(-14.5)
非製造業	1,320	1,091	1,072	990	1,376	1,130
	(-18.7)	(-17.3)	(-1.7)	(16.3)	(39.0)	(-17.8)
同(船舶を除く)	912	1,010	900	881	1,184	1,025
	(-8.5)	(10.7)	(-10.9)	(38.7)	(34.4)	(-13.5)

(注) 経済企画庁調べ、カッコ内は前期(月)比増減(-)率(%)。

+23.0%、9月+20.2%)に対する反動から、-14.5%とかなり大幅の減少をみた。当月の減少は、非製造業が電力の反動減などから減少(-13.5%)したほか、製造業も5か月ぶりに反落(-14.5%)したことによるものである。

もっとも、これを3か月移動平均値の前月比で見れば、8月(+10.1%)のあと9月も+7.1%と2か月連続の増加となっており、受注回復基調に変わりはないものとうかがわれる。

上記受注内容を業種別にみると、製造業では、鉄鋼(+34.9%)が前月大幅減少の反動もあって著増、機械(+9.6%)、繊維(+4.1%)もかなりの増加を続けたが、石油(-78.8%)、化学(-37.7%)はじめその他の主要業種はすべて減少した。また非製造業でも、上記電力の大幅反動減(-23.3%)が目だつほか、運輸(-10.5%)、建設(-7.1%)等主要業種は軒並み反落した。

建設工事受注額(民間産業分、季節調整済み、前月比)は、前3か月連続増加(7月+18.9%、8月+4.8%、9月+4.1%)のあと、10月(速報)は-3.5%と反落した。もっとも、3か月移動平均値の前月比で見れば、8月+8.6%のあと9月は+10.4%とむしろ増勢を強めている。

一方、官公需も、前2か月著増(8月+33.6%、9月+14.2%)の反動から10月は-22.6%と大幅の減少をみた。

### ◇商品市況は引き続き強基調

11月の商品市況は、前半急騰した木材が月末近くやや騰勢鈍化を示したものの、しばらく落ち着きぎみであった鉄鋼が一段高となったほか、繊維も全面高となり、石油製品、セメント、化学品、紙、砂糖も堅調裡に推移するなど総じてみれば強基調を継続した。

月末近く木材が騰勢鈍化を示したのは、手当て買い一巡や政府の輸入促進等緊急対策発動から問屋・仲買筋の思惑買いがやや落ち着いてきたことによる面が大きい。

商品市況が総じて強基調を継続している背景としては、官公需、住宅建設、設備投資等最終需要がこのところ拡大テンポを高めているのに対して、供給面では、生産調整などによってなお人為的に供給が抑制されているもの(原料エチレン、塩ビ、ポリエチレン、紙、石油製品、合繊、粗鋼)があるほか、供給能力そのものに余力が乏しいもの(内外材、セメント、条鋼類、そ毛糸等)があって、需給のピッチが強まっている商品が多いことがあげられよう。こうした動きを背景に、一部の商品(木材、条鋼類)などでは思惑買いを含め流通在庫補充の動きが活発化しているほか、生産能力面で余力に乏しいセメントや平電炉関係では設備増設気運が高まっている。

品目別の動きは次のとおり。

鉄鋼……11月前半に、棒鋼、熱延薄板が反発したあと、11月後半には軽量形鋼、H形鋼、冷延薄板、厚板等ほぼ全品種が値上がりし、鋼板類は45年春ごろ、条鋼類は45年秋から46年初ごろの価格水準に戻した。これは、①官公

需、非製造業等の設備投資関連需要、自動車、建設機械等向け素材需要を中心に、実需の増加テンポが市中の予想を上回っていること、②このため、これまでやや弱気であった一部のユーザー、問屋筋の仕ぶりがあらためて強気化してきたこと、などによる。

繊維……生糸、そ毛糸が反発したほか、合繊糸、綿糸、スフ糸も強保合いなし強含みを続けており、総じて強基調を継続した。これは、織物採算の好転等による糸手当ての進捗(綿糸)、家具等資材向け需要の好調(スフ糸)のほか、シーズン入りの来春夏物糸手当ての開始(合繊糸)も加わったことによるところが大きい。

非鉄金属……亜鉛は保合いにとどまったものの、銅が続落し、すずも弱含みに転じたほか、鉛も弱保合いを続けるなど総じて弱基調を継続した。これは、海外建値の引上げ予想(亜鉛)や電線、バッテリー向け実需の増加にもかかわらず、円再切上げの思惑などからユーザー、問屋筋で先

### 卸売物価指数の推移

(単位:%)

	ウェイト	前年度比率 上昇		最近の推移(前月(旬)比上昇率)					
		45年度 平均	46年度 平均	47年			47年11月		
				9月	10月	11月	上旬	中旬	下旬
総平均	100.0	2.4	0.8	0.9	1.0	2.3	0.8	0.7	1.8
食料品	15.7	2.4	3.2	0.6	0.6	1.0	0.5	0.2	0.6
繊維品	10.7	5.2	1.8	2.8	3.3	0.3	-0.1	-0.1	0.9
鉄鋼	9.7	2.2	7.9	0.6	0.3	0.3	-0.1	0.1	0.6
非鉄金属	4.4	7.6	11.6	1.9	-1.1	-1.5	-1.1	-0.2	-0.2
金属製品	3.8	4.2	0.5	0.2	0.4	0.5	0.1	0.2	0.4
機械器具	22.1	1.5	0.1	0.2	0.1	保合	保合	保合	0.1
石油・石炭・同製品	5.6	4.5	9.8	保合	0.3	0.2	保合	0.1	0.3
木材・同製品	6.2	3.4	4.7	2.2	4.1	24.8	9.4	6.5	16.6
窯業製品	3.0	4.8	1.9	0.2	0.3	0.4	0.1	保合	0.4
化学品	7.6	0.5	0.2	0.3	0.4	0.2	0.1	0.1	0.1
紙・パルプ・同製品	3.4	6.7	1.2	0.8	0.4	0.3	保合	0.1	保合
雑品目	7.9	3.4	0.4	1.0	1.0	0.8	0.2	0.3	0.1
工業製品	82.0	3.0	0.8	0.7	0.7	2.0	0.6	0.5	1.6
うち大企業性	59.6	1.5	1.2	0.5	0.4	0.1			
中小企業性	21.0	6.5	0.2	1.2	1.9	6.2			
非工業製品	18.0	0.1	0.8	1.7	1.8	3.8	1.6	1.2	3.1

(注) 日本銀行調べ。

安観を強めているためである。

石油製品……生産調整によって供給が抑制されているうえ、需要も暖房用(灯油)や建設機械、セメント、鉄鋼、紙・パルプ向けなどの燃料用(軽油、重油)が増加しているため、総じて堅調を続けた。

セメント……国内向け出荷は10月に前年同月比+28.1%と既往最高の伸びを示したあと、11月にはいってからも官公需や民間非製造業設備投資、住宅投資関連需要を中心に増加基調を続けており、市況もじり高となっている。

木材……11月前半は内地材、外材ともほぼ全品種にわたって急騰した。これは、①民間住宅建設向けを中心とする需要の急増に対し供給増が伴っていないうえ、②間屋・仲買筋の先高思惑がからんでいるためである。もっとも月末近くには、間屋・仲買筋の手当て買い一巡や冬場不需要期控え、代替品(軽量形鋼、合板、ボード類等)への需要シフトなどから騰勢鈍化を示した。

化学品……合成樹脂では、塩ビ、ポリエチレンをはじめ総じて官公需、住宅関連需要の堅調や欧米向け輸出の増加に加え、不況カルテルによる供給抑制(エチレン)もあって、強含みを続けた。また基礎薬品類でも、化学肥料、紙・パルプ向け原料需要の増加(硫酸、カセイソーダ)の反面、供給抑制が続けられており、総じて強保合いを続けた。

紙……洋紙は商業印刷、出版向けや新聞用紙関連需要の増加を主因に総じて強含みに推移した。また板紙も、贈答品関連需要(化粧箱用)や青果物包装用需要の増加を背景に

白板紙が一段高のほか総じて強基調を続けた。

砂糖……全日本砂糖工業会の市況対策(操業の一時停止など)が、公取委の立入り検査によって中断されたため、市況は弱含みに転じた。

(卸売物価——11月は既往最大の上昇)

卸売物価は、8月以降かなりの上昇を続けたあと、11月は前月比+2.3%と現行方式の卸売物価統計開始(27年1月)以来最大の上昇率<sup>(注)</sup>となった(前年同月比+6.0%)。これは木材・同製品が急騰(前月比+24.8%、上昇寄与率87%)したのが主因であるが、そのほかでも繊維品、鉄鋼、雑品目(皮革類、飼料)をはじめ総じて続騰しており、木材・同製品を除いても前月比+0.3%と上昇を続けた。

(注) これまでの最大の上昇率は28年8月および31年9月の前月比+1.9%。

(工業製品生産者物価——10月は大幅上昇)

10月の工業製品生産者物価は、前月比+0.9%

工業製品生産者物価指数の推移

	ウェイト	前年度比上昇率		最近の推移 (前月比上昇率)		
		45年度 平均	46年度 平均	47年		
				8月	9月	10月
総平均	100.0	2.5	- 0.9	0.5	0.7	0.9
食料品	12.6	4.3	2.9	0.3	0.2	- 0.1
天然および化学繊維	3.0	6.7	- 6.6	1.7	4.8	8.6
合成繊維	1.4	- 6.8	- 15.4	0.3	0.3	0.3
織物	2.8	1.5	- 3.4	2.1	1.7	2.5
繊維二次製品	3.2	7.4	2.9	1.1	1.2	1.4
普通鋼鋼材	7.2	0.8	- 7.8	0.6	0.4	0.1
特殊鋼鋼材その他	2.5	5.5	- 0.3	0.2	0.1	保合
非鉄金属	4.4	- 6.5	- 8.7	- 0.6	2.0	- 0.6
金属製品	4.6	3.1	- 1.0	0.2	保合	0.4
一般機械	10.4	3.3	1.2	0.6	0.4	0.2
輸送機械	8.3	0.2	0.4	- 0.1	0.1	0.1
電気機械器具	9.1	1.1	- 2.1	- 0.3	保合	- 0.3
石油・石炭製品	3.7	4.6	9.3	0.2	0.3	0.8
木材・同製品	5.0	6.3	- 3.3	2.3	2.7	6.1
窯業製品	3.4	2.9	1.9	保合	0.2	0.1
化学品	7.8	- 0.2	- 0.7	0.2	0.2	0.2
紙・パルプ・同製品	4.5	6.0	- 0.8	1.7	0.8	0.4
雑品目	6.1	3.2	0.8	0.6	0.5	0.8

(注) 日本銀行調べ。

と9月(前月比+0.7%)を上回る大幅上昇となった。これは非鉄金属、電気機器等が反落したものの、天然および化学繊維、木材・同製品が急騰し、織物、金属製品、石油・石炭・同製品等が騰勢を強めたためである。

(消費者物価——11月は小幅下落)

11月の消費者物価・総合(東京都区部・速報)は前月比-0.2%と昨年11月以来1年ぶりに下落した。これは、くだもの(みかん、バナナ、りんご等)の大幅値下がりを中心に食料が下落(前月比-0.7%)したため、季節商品(くだもの、野菜、生鮮魚介)を除く総合では前月比+0.4%と小幅ながら上昇を続けた。

費目分類別の動向をみると、食料は前記のとおり下落し、被服も秋物衣料の値下がりから微騰に

とどまったものの、住居が角材、ベニヤ板の値上がりからかなり上昇したほか、光熱、雑費も灯油、石炭や理髪料、パーマメント代の値上がりを主因に引き続き上昇した。

10月の全国消費者物価は、総合で前月比+0.7%と引き続きかなりの上昇を示した。これは野菜、生鮮魚介が値下がりしたものの、消費者米価が引き上げられた(引上げ幅7.5%、総合に対する上昇寄与度0.35パーセント・ポイント)ほか、中小企業性工業製品(はきもの、袋物等)、サービス(米価引上げに伴う外食料金、民営家賃間代、国立大学授業料=公共料金、理髪料、大工手間代等の料金)が引き続き上昇したためである。

(輸出入物価——輸入は急騰、輸出も小幅続伸)

10月の輸出物価は、9月小反発(前月比+0.1%)のあとも前月比+0.1%と小幅ながら上昇を続けた(船舶を除く総平均では9月+0.3%に続き10月も+0.4%)。これは輸送用機器が船舶の安値成約から続落したものの、化学製品(肥料、ポリエチレン等)、繊維品(毛糸、羊毛トップ等)、一般・精密機器(玉軸受、写真機等)が引き続き上昇したためである。

また10月の輸入物価は、前月比+2.1%と9月(同+1.3%)を上回る大幅上昇となった。これは金属(銅鉱、銅地金等)、鉱物性燃料(原料用炭、原油)が下落したものの、繊維品(羊毛、生糸等)、木材・同製品(つが製材、米つが丸太等)が急騰したほか、食料品(小麦、大豆等)、雑品目(飼料、原皮等)も続騰したためである。

こうした輸入物価の大幅上

消費者・輸出入物価指数の推移

		ウエ イト	前年度比 上昇率		最近の推移 (前月比上昇率)			最近 月の 前年 同月 比
			45年度 平均	46年度 平均	47年			
					9月	10月	11月	
消 費 者 物 価	総 合	100.0	6.9	6.0	0.1	0.2	*-0.2	*4.6
	(季節商品を除く)	91.3	6.3	6.6	0.4	0.7	0.4	5.6
	食 料	40.3	7.4	5.9	2.3	-0.3	*-0.7	*3.0
	住 居	11.8	5.5	3.7	0.2	0.3	0.6	5.6
	光 熱	3.7	1.1	1.3	0.1	保 合	0.4	9.3
	被 服	12.4	11.0	8.5	2.2	0.9	0.1	4.2
	雑 費	31.8	5.7	6.7	-0.4	0.2	0.2	5.8
	特 殊 分 類							
	農 水 畜 産 物	16.6	6.0	1.6	5.1	-1.5	...	-5.6
	工 業 製 品	43.6	8.0	5.5	0.7	0.5	...	3.7
	うち 大企業製品	19.8	-	2.6	-0.1	0.3	...	1.0
	中小企業製品	23.8	-	7.9	1.3	0.7	...	5.7
	サ ー ビ ス	37.0	5.9	7.8	0.2	0.3	...	8.3
全 国	総 合	100.0	7.3	5.7	0.5	0.7	...	3.9
	(季節商品を除く)	91.0	6.3	6.2	0.6	1.0	...	5.1
上 都 市	総 合	100.0	7.4	5.8	0.6	0.6	...	3.9
人 口 5 万 以 上	(季節商品を除く)	91.0	6.4	6.3	0.6	1.0	...	5.2
輸 入 物 価	輸 出		3.5	1.8	0.1	0.1	...	-2.2
	輸 入		-0.4	-1.4	1.3	2.1	...	-0.2
	交 易 条 件		1.6	1.0	-1.4	-1.9	...	-2.0

(注) 1. 消費者物価は総理府統計局、輸出入物価は日本銀行調べ。  
2. \*印は速報。

昇を映じて、10月の交易条件指数は100.4(45年平均=100)、前月比-1.9ポイントの低下と前月(同-1.4ポイントの低下)に引き続き大幅に悪化した。

#### ◇国際収支は史上3番目の大幅黒字

10月の国際収支は、総合収支で935百万ドルの黒字と史上3位の大幅黒字を記録した。

これは貿易収支の黒字幅が縮小(687百万ドル、前月918百万ドル)し、長期資本収支が引き続き高水準の流出超(370百万ドル、前月315百万ドル)となったものの、短期資本収支(流入超570百万ドル、前月同159百万ドル)および誤差脱漏項目(同169百万ドル、前月同16百万ドル)が船舶輸出前受金等の流入を中心に大幅な流入超となったためである。

10月の貿易収支を季節調整後でみると輸入が前2ヵ月大幅増加のあと当月は小幅反落(前月比-1.7%、前月同+2.6%、前々月同+17.8%)したものの、輸出が前月著増をみた船舶等の反動減が大きく響いてかなりの落込み(前月比-4.9%、前月同+7.4%)を示したため、収支じりでは697百万ドルの黒字と前月(同789百万ドル)に比し黒字幅を縮小した。

長期資本収支は370百万ドルの流出超と前月(同315百万ドル)に引き続き高水準の流出超を記録した。これは、本邦資本が対外借款供与等の大口投資が集中したことなどから流出超幅を拡大(473百万ドル、前月同462百万ドル)したうえ、外国資本も対日証券投資の純流入額の減少等から流入超幅を縮小(103百万ドル、前月同147百万ドル)したためである。

金融勘定では、外銀借入れ増、ユーロの取入れ超などから、為銀ポジションは397百万ドルの大幅な悪化となり、月末の資産超過額は80百万ドルとなった。この間、外貨準備高は1,307百万ドルの大幅増加を示し、月末には17,796百万ドルとなった。

10月の輸出(国際収支ベース)は季節調整済み前月比で-4.9%と、前月著増(季節調整済み前月比

+7.4%)の反動が大きく響いて減少を示した(原計数の前年同月比+18.1%、前月同+25.0%)が、輸出の実勢は高水準を維持しているとみられる。なお、通関ベースの邦貨表示額は前年同月比+9.7%とほぼ前月(同+11.6%)並みの高水準となった。

品目別(通関ベース)にみると、前月大幅増加をみた船舶、鉄鋼、テレビ等が減少したものの、自動車、化学製品、ラジオ等は引き続きかなりの伸びを示している。地域別では米国向けが伸び率鈍化をみせたものの、欧州向けが依然としてかなりの増勢を示したほか、東南アジア向けもこのところ堅調を維持している。

先行指標である輸出信用状接受高は、11月に季節調整後前月比で+1.6%(前月同+2.0%)、原計数の前年同月比で+22.3%(前月同+28.0%)と前月に引き続き高い伸びを示した。

品目別にみると、鉄鋼、電気機械、一般機械が高水準を維持したほか、非鉄金属も米国向け(アルミコンテナ等)を中心にかなりの増加をみせた。地域別では、米国向けが堅調な伸びを示し、非米地域向けも、欧州向け、アジア向けなどが増勢を維持している。

10月の輸入(国際収支ベース)は、原計数の前年同月比では、前年の低水準もあって+29.5%と前月(同+36.9%)に引き続き高い伸びを示したが、季節調整後の前月比では、前2ヵ月大幅増(前月+2.6%、前々月+17.8%)の反動減もあって、-1.7%と小幅反落をみた。なお、通関ベースでの邦貨表示額は、前年同月比でみると+17.2%と高い伸びを示している。

品目別(通関ベース)にみると、原油、木材、羊毛、綿花等の原燃料や、一般消費財、食料品等の好伸が目だっている。

10月の輸入承認額は前年同月比+35.7%の大幅な伸びとなり、既往最高の額を記録した(季節調整後前月比では+2.8%)。

品目別にみると、繊維原料(羊毛、綿花等)、石油、非鉄金属鉱、木材等がかなり高い伸びを示し

国 際 収 支

(単位・百万ドル)

	47 年			47 年			46 年 10 月
	1～3月	4～6月	7～9月	8 月	9 月	10 月	
経 常 収 支	960	1,224	2,095	626	719	566	568
貿易収支	1,690	1,996	2,618	729	918	687	714
輸 出	6,017	6,473	7,347	2,374	2,583	2,459	2,082
輸 入	4,327	4,477	4,729	1,645	1,665	1,772	1,368
貿易外収支	△ 581	△ 556	△ 461	△ 95	△ 164	△ 103	△ 129
移 転 収 支	△ 149	△ 216	△ 62	△ 8	△ 35	△ 18	△ 17
長期資本収支	△ 759	△ 738	△ 1,144	△ 346	△ 315	△ 370	△ 199
本邦資本	△ 836	△ 935	△ 1,404	△ 397	△ 462	△ 473	△ 164
外国資本	77	197	260	51	147	103	△ 35
基礎的収支	201 ( 735)	486 ( 584)	951 ( 604)	280 ( 210)	404 ( 275)	196 ( 206)	369 ( 367)
短期資本収支	827	△ 204	682	325	159	570	△ 175
誤差脱漏	△ 53	137	△ 95	△ 48	16	169	△ 61
総合収支	975	419	1,538	557	579	935	133
金融勘定	975	419	1,538	557	579	935	133
外貨準備増減	1,428	△ 818	644	488	117	1,307	714
その他	△ 293	1,237	894	69	462	△ 372	△ 581
外貨準備高	16,663	15,845	16,489	16,372	16,489	17,796	14,098
為 銀 対 外 ポ ジ シ ョ ン	△ 1,734	△ 477	554	68	477	80	△ 920

- (注) 1. カッコ内は貿易収支のみを季節調整した基礎的収支。  
 2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。  
 3. 金融勘定の△印は純資産の減少。

輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国 際 収 支			通 関		輸 出 信用状	輸 出 認 証	輸 入 承 認
	輸 出	輸 入	貿 易 収 支	輸 出	輸 入			
47 年 1～3 月	2,193 (+ 5.2)	1,451 (+ 6.7)	742	2,249 (+ 6.3)	1,803 (+ 6.0)	1,723 (+ 2.4)	2,397 (+ 8.7)	1,734 (+ 7.1)
4～6 〃	2,176 (- 0.8)	1,478 (+ 1.8)	698	2,212 (- 1.7)	1,826 (+ 1.2)	1,751 (- 1.7)	2,303 (- 3.9)	1,793 (+ 3.4)
7～9 〃	2,367 (+ 8.8)	1,610 (+ 9.0)	757	2,415 (+ 9.2)	1,980 (+ 8.4)	1,897 (+ 8.3)	2,560 (+ 11.2)	2,024 (+ 12.9)
47 年 7 月	2,249 (+ 6.9)	1,426 (+ 4.4)	823	2,333 (+ 10.1)	1,749 (+ 5.4)	1,783 (+ 2.9)	2,407 (+ 5.8)	1,840 (+ 7.9)
8 〃	2,339 (+ 4.0)	1,680 (+ 17.8)	659	2,388 (+ 2.3)	2,106 (+ 20.4)	1,884 (+ 5.7)	2,721 (+ 13.0)	2,169 (+ 17.9)
9 〃	2,513 (+ 7.4)	1,724 (+ 2.6)	789	2,523 (+ 5.7)	2,085 (- 1.0)	2,023 (+ 7.4)	2,553 (- 6.2)	2,063 (- 4.9)
10 〃	2,391 (- 4.9)	1,694 (- 1.7)	697	2,489 (- 1.4)	2,062 (- 1.1)	2,064 (+ 2.0)	2,680 (+ 5.0)	2,120 (+ 2.8)

- (注) 1. 四半期計数は月平均。  
 2. カッコ内は対前期(月)比増減率(%)。  
 3. 季節調整はセンサス局法による。



## 通関輸出の内訳

(単位・百万ドル)

	47年			47年	
	1~3月	4~6月	7~9月	9月	10月
食料品	138 (- 5)	146 (- 3)	188 (- 3)	65 (+ 10)	67 (- 2)
魚介類	89 (+ 25)	96 (+ 31)	143 (+ 41)	50 (+ 63)	44 (+ 34)
繊維・同製品	609 (+ 10)	725 (+ 2)	774 (+ 8)	268 (+ 15)	247 (- 4)
合繊糸	81 (+ 2)	88 (- 16)	91 (- 17)	31 (- 8)	32 (- 25)
綿織物	46 (+ 21)	58 (+ 20)	62 (+ 22)	21 (+ 20)	20 (+ 5)
合繊織物	165 (+ 11)	194 (+ 2)	215 (+ 14)	78 (+ 17)	74 (+ 1)
化学製品	394 (+ 16)	416 (+ 12)	456 (+ 19)	144 (+ 14)	158 (+ 35)
非金属鉱物製品	104 (+ 26)	117 (+ 22)	128 (+ 25)	43 (+ 34)	40 (+ 13)
金属・同製品	1,029 (+ 7)	1,107 (- 4)	1,284 (+ 5)	455 (+ 13)	401 (+ 11)
鉄鋼	779 (+ 5)	812 (- 10)	951 (- 1)	338 (+ 5)	295 (+ 8)
機械機器	3,399 (+ 36)	3,453 (+ 25)	3,992 (+ 29)	1,443 (+ 35)	1,388 (+ 27)
(船舶を除く)	2,813 (+ 40)	3,018 (+ 26)	3,352 (+ 28)	1,178 (+ 36)	1,204 (+ 27)
事務用機器	102 (+ 19)	108 (+ 19)	123 (+ 29)	44 (+ 25)	48 (+ 38)
テレビ	124 (+ 27)	144 (+ 15)	158 (+ 3)	63 (+ 26)	50 (0)
ラジオ	199 (+ 31)	246 (+ 36)	294 (+ 32)	101 (+ 36)	101 (+ 24)
自動車	731 (+ 67)	681 (+ 23)	699 (+ 17)	260 (+ 37)	292 (+ 19)
二輪自動車	216 (+ 62)	205 (+ 43)	191 (+ 41)	59 (+ 33)	64 (+ 30)
船舶	586 (+ 20)	434 (+ 17)	639 (+ 36)	264 (+ 31)	184 (+ 27)
光学機器	158 (+ 35)	189 (+ 35)	204 (+ 36)	71 (+ 46)	70 (+ 31)
テープレコーダー	128 (+ 36)	156 (+ 38)	177 (+ 29)	60 (+ 30)	66 (+ 23)
その他	492 (+ 6)	615 (+ 5)	676 (+ 9)	222 (+ 23)	214 (+ 19)
合計	6,164 (+ 22)	6,579 (+ 13)	7,518 (+ 19)	2,639 (+ 25)	2,514 (+ 19)
(船舶を除く)	5,578 (+ 22)	6,145 (+ 12)	6,859 (+ 17)	2,375 (+ 25)	2,330 (+ 18)

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。

## 通関輸入の内訳

(単位・百万ドル)

	47年			47年	
	1~3月	4~6月	7~9月	9月	10月
食料品	798 (+ 13)	886 (+ 29)	884 (+ 33)	326 (+ 37)	311 (+ 22)
肉類	61 (+ 142)	82 (+ 80)	91 (+ 68)	33 (+ 83)	39 (+ 61)
魚介類	120 (+ 74)	137 (+ 66)	141 (+ 51)	46 (+ 43)	50 (+ 6)
小麦	73 (+ 19)	92 (+ 15)	88 (+ 46)	34 (+ 41)	34 (+ 26)
とうもろこし	62 (- 5)	56 (- 4)	65 (+ 11)	21 (+ 15)	26 (+ 12)
砂糖	96 (+ 3)	116 (+ 30)	127 (+ 94)	60 (+ 179)	24 (+ 53)
原燃料	2,981 (+ 7)	3,026 (+ 5)	3,228 (+ 21)	1,122 (+ 29)	1,210 (+ 30)
羊毛	88 (+ 33)	113 (+ 53)	120 (+ 76)	48 (+ 158)	39 (+ 107)
綿花	170 (+ 27)	183 (+ 26)	125 (+ 9)	40 (+ 28)	53 (+ 29)
鉄鉱石	310 (- 2)	275 (- 22)	326 (- 1)	110 (- 1)	121 (+ 12)
鉄鋼くず	22 (- 49)	24 (- 19)	27 (+ 1)	8 (- 4)	7 (- 13)
非鉄金属鉱	217 (- 12)	237 (- 11)	272 (+ 1)	80 (- 17)	101 (+ 20)
大豆	111 (+ 2)	119 (+ 28)	115 (+ 19)	37 (+ 3)	42 (- 11)
木材	363 (- 6)	438 (+ 15)	429 (+ 40)	153 (+ 70)	163 (+ 40)
石炭	248 (- 9)	263 (0)	282 (+ 14)	87 (+ 8)	96 (+ 2)
原油	921 (+ 35)	878 (+ 16)	992 (+ 27)	375 (+ 44)	372 (+ 48)
化学製品	266 (+ 8)	258 (+ 4)	296 (+ 29)	99 (+ 33)	112 (+ 12)
機械機器	725 (+ 13)	613 (- 7)	596 (+ 16)	201 (+ 36)	193 (- 7)
航空機	168 (+ 101)	90 (- 35)	60 (+ 12)	15 (+ 193)	14 (- 65)
その他	647 (+ 29)	737 (+ 39)	849 (+ 44)	301 (+ 61)	328 (+ 64)
非鉄金属	191 (+ 17)	213 (+ 13)	237 (+ 26)	79 (+ 33)	85 (+ 56)
合計	5,417 (+ 11)	5,520 (+ 10)	5,865 (+ 26)	2,049 (+ 35)	2,153 (+ 27)
工業用原料	3,551 (+ 8)	3,622 (+ 8)	3,908 (+ 24)	1,359 (+ 34)	1,457 (+ 34)
一般消費財	220 (+ 64)	253 (+ 68)	299 (+ 71)	104 (+ 67)	116 (+ 60)

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。

---

ている。

10月の輸入素原材料在庫(季節調整後)は、前月比 +5.0%増加し、同消費が +0.7%にとどまった

ため、在庫率は101.5(前月 97.4、40年=100)と前月比 4.1ポイント上昇した。